



2010年 秋 近畿支部大会を高野山で開催した。
大会テーマは「継承と変容」

中世から現在に継承される参詣道であるが、地域住民の生活圏も包括しているため、歴史的持続性と生活環境の変化への取組みを迫られている。しかしながら「歴史と文化を守り伝える"こころ"」は不変であることを祈りたい。
(文責：橋本雅史)



世界遺産の紹介

平成16年7月7日に、熊野古道を含む「紀伊山地の霊場と参詣道」が、世界遺産リストに登録されました。

「熊野三山」、「吉野・大峯」、「高野山」の3つの霊場と、これらをつなぐ「熊野参詣道（熊野古道）」、「大峯奥駈道」、「高野山町石道」からなり、三重県・奈良県・和歌山県に広がっている世界遺産です。

熊野古道は、熊野三山（熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社）に参るための道。

伊勢から、吉野から、高野山から、そして京都からと幾筋かのルートがあったが、代表的なものが紀伊半島を西回りする「紀伊路」と、東回りの「伊勢路（東熊野街道）」でした。

紀伊路は、平安中期から鎌倉期にかけて盛んに行われた法皇や上皇らの御幸ルートで、道筋には熊野権現の末社として九十九王子社が祀られていた。

これに対して、江戸時代以降盛んに歩かれるようになった伊勢路は、伊勢参宮を終えた旅人や、西国三十三カ所めぐりの巡礼たちが辿った、いわば庶民の道。起点の田丸で巡礼装束に身を改めた旅人が、いくつもの険しい峠を越えて、あこがれの地・熊野をめざした道です。

